

# 仲良し活動

週明けから二日間、雨が続いて運動場が使えません。弘希ひろきは、黒い雲が広がる空を見上げては、ため息をついています。

弘希は最近ドッジボールに夢中になっていたのです。これまではにげてばかりだったけれど、胸むねでボールを受けることを覚えてからめきめき上達中でした。

水曜日、久しぶりの青空が広がっています。しかし、昨日までの雨で、運動場がぬかるんでいるため、朝は運動場に出られません。太陽の光を浴びて、土はどんどんかわいています。

弘希は、授業を受けていても、つい運動場に目をやって、「あと少し、あと少し。」とつぶやいていました。

やっとチャイムが鳴りました。中間休みの始まりです。弘希が飛ぶように立ち上がった時、放送が流れました。

「今日は、仲良し活動の日です。決められた場所に集まって、活動を始めましょう。」

弘希の学校では、月二回、一年生から六年生までがいっしょに遊ぶ縦割たわり班活動はんがあるので。弘希は、思わず

「えっっ！」

と声を出してしまいました。

仲良し活動が始まりました。

今日は、運動場で「ふえおに」をすることになりました。弘希は、おにごっこが始まって全然やる気が出ませんでした。

終わりのチャイムと共に、また放送が流れてきました。

「今日も仲良く活動できましたか。高学年の人は、次の活動の計画を立てておきましょう。」

流れるようなあせをかけた男の子と目が合いました。にっこり笑いかけるその子に、弘希は手をふりながら、心の中では（仲良し活動なんて、どうしてあるんだろう。やることはたいいてい同じだし、めんどくさいだけだ…。）とっていました。

昼休みになりました。弘希は、さいばい委員会の草引き当番が当たっています。どんなに急いでも、昼休みにドッジボールをすることは無理です。



ワイワイさわいで運動場に出て行くみんなを横目で見ながら、弘希は中庭に向かいました。草引きを始めても、頭の中はドッジボールのことでいっぱいです。（みんな今ごろ楽しんでるんだらうなあ。）

「弘希さん、

ありがとうございます。」

とつ然、後ろから

聞き覚えのある声がありました。

ふり返ると、去年担任だった

彰子先生あきこが笑っています。

「草引きは、さいばい委員会の仕事だから…。」

弘希が話し始めると、彰子先生は、首を横にふりました。

「ううん。草引きじゃなくて、中間休みのことよ。」

そう言われても、弘希にはなんのことか分かりません。とまどっている弘希にかまわず、先生は話し続けました。

「弘希さんの仲良し班に、二年生の大介だいすけさんがいるでしょ。大介さんは先生が担任しているの。おとなしくて、休み時間にも教室で過ごすことが多い子なのよ。その大介さんが、今日はあせ



びっしょりで、ニコニコして教室に帰ってきたの。お兄ちゃんたちに遊んでもらって楽しかったって。」

先生の言葉を聞きながら、弘希は、自分が低学年のときのことを思い出していました。知らないお兄ちゃんやお姉ちゃんに囲まれて少し不安だったこと、いっしょに遊んで仲良くなったこと、そして、仲良し活動の時間を楽しみにしていたこと…。

先生は、またにっこり笑って言いました。

「弘希さん、ありがとうございます。これからも小さい子たちをよろしくね。」

弘希も、今度は笑顔で答えました。

「はい。がんばります。」

